

日本熱物性学会 2009 年第 1 回役員会報告 (HP 版)

日時：平成 21 年 1 月 24 日 (土) 13:00~17:00

会場：キャンパスイノベーションセンター5 階リエゾンコーナー501

主な議題：

新旧会長挨拶

大西前会長より挨拶があった。続いて諸岡会長より御挨拶があった。今年度も先生方の御支援を今まで以上に賜りたい旨の挨拶があった。

1. 新旧役員紹介と前回議事録確認

新旧役員の自己紹介が行われた。また、役員名簿について確認が行われた。長坂事務局担当より前回議事録について説明が行われた。

2. 学生ベストプレゼンテーション賞選考結果報告

佐藤春樹活動委員長より、第 29 回日本熱物性シンポジウム第 6 回学生ベストプレゼンテーション賞の審査結果について報告があった。ベストプレゼンテーション賞は 7 名に決定したとのこと。毎年特定の研究室に受賞者が偏るという指摘があり、今回は発表者の寄与度、質疑の回数等の新しい評価基準により選定を行った。

3. 第 29 回日本熱物性シンポジウム報告

田中明美第 29 回日本熱物性シンポジウム実行委員より、第 29 回日本熱物性シンポジウムの開催報告ならびに収支報告があった。お菓子を敷島製パンより御寄付いただいたので、改めて御礼を述べられた。また、永井先生には e-Thermo2008 においてシンポジウム開催のアナウンスをしていただいた。今回は参加者が非常に多く、盛会に終わった。参加者の皆様、関係者の方々の御協力があり、改めて御礼を述べられた。

4. 覚書の確認

長坂事務局担当より、日本熱物性学会の運営に関する覚書の説明があった。役員の役員会出張旅費についての説明があった。また、シンポジウム講演論文集の保管数について第 29 回 (東京) の項目を追記した旨の説明があった。熱物性学会論文集・会誌・その他資料について順次デジタル化したいとのこと。

5. 平成 20 年活動・決算報告

長坂事務局担当より、平成 20 年活動報告ならびに決算報告があった。30 周年記念寄付が

一件あり、論文集や学会誌のデジタル化に使用したい旨の提案があり、問題なく了承された。決算については、監事の佐藤讓先生ならびに田中隆先生に確認いただき、監査は終了しているとのこと。

6．平成 21 年事業計画・予算案

長坂事務局担当より、平成 21 年度の実業計画について説明があった。シンポジウムが学会最大の事業であり、今年は山形（実行委員長：高橋一郎先生）で開催することに決定している旨の説明があった。学会論文誌については、年 4 回発刊する計画であるとのこと。

また、平成 21 年度収支予算案が説明された。会費、会誌広告収入については例年通りであると見積もっているとのこと。また、支出も例年通りであるが、2．事業費の研究分科会の活動費については、活動に見合った配分にするために少なく見積もっている旨の説明があった。諸岡会長より、研究分科会の活動を盛り上げていきたいので、必要な研究分科会には予算面で活動を補助していきたいとの意見があった。研究分科会が自立して活動できるように、会費制を導入することや出版活動を活発にしたいとの意見もあった。J-Stage 掲載料ならびにホームページリニューアル経費を計上したい旨の提案があり、問題なく了承された。収支予算案については、一部追記修正し、4 月の役員会で審議にかけることに決定した。

7．第 30 回日本熱物性シンポジウム準備状況

高橋実行委員長より、第 30 回日本熱物性シンポジウム準備状況の説明があった。第 1 回実行委員会を既に関催し、スケジュール案を作成したとのこと。一般市民にも開放したイベントをシンポジウム前日に企画している旨の説明があった。食パンに関するパネルディスカッションと融雪技術と活用に関する講演を行う予定であり、特別講演は山形大学の 2 名の先生にお願いする予定であるとのこと。また JR（東京-米沢間）と温泉宿の格安パックを旅行代理店に作成してもらっており、会告に情報を掲載する旨の説明があった。プログラム編成日程については、理事会の日程を考慮して修正するとのこと。プログラム案の承認は 9 月 19 日に、プログラム WEB 公開については 9 月 28 日に修正した旨の説明があり、問題なく了承された。

第 31 回日本熱物性シンポジウムについて

藤井先生より、第 31 回日本熱物性シンポジウムの開催について説明があった。メンバーは組織しつつあるが、開催場所や日程について具体的に決定していないとのこと。

第 31 回日本熱物性シンポジウムを九州地区で開催することで問題なく了承された。今後、実行委員会を組織して具体的な計画をたてるということになった。

8．各種委員会報告

編集委員会

吉田編集委員長より、シンポジウムの報告や会告について原稿を1月末までに提出いただきたい旨のお願いがあった。また、論文投稿が非常に少ないために、是非論文投稿をお願いしたいとのこと。リポジトリへの対応を含めて、熱物性誌に投稿された論文の著作権について編集委員会で検討することに決定した。シンポジウムで表彰された論文について査読付で再投稿させるというのを義務化させてはどうかという意見があった。受賞者の入会義務化も含めて今後検討していくことになった。

熱物性サービス委員会

馬場熱物性サービス委員長より、熱物性サービス委員会の活動報告があった。年に一度シンポジウムの開催に併せて委員会を開いており、データベースに関する意見交換を行っているとのこと。コンテンツとインターフェースの両方が充実したので、広く公開し活用してもらいたい。

活動委員会

佐藤活動委員長より、30年記念行事ならびに研究分科会調整委員会（仮）の説明があった。30年記念事業では、特集号・講演会・学会誌のデジタル化を行う予定であるとのこと。牧野俊郎先生を30年記念行事実行委員会委員長、佐藤春樹先生を副委員長に推薦したいという提案があり、問題なく了承された。30年記念事業の中で、技術ロードマップのようなものを整備した方が良いのではないかという意見があった。

大西晃先生を研究分科会調整委員会（仮）委員長、佐藤春樹先生を副委員長に推薦したいという提案があり、問題なく了承された。公益法人化についても今後議論していく必要があるとのこと。

広報委員会

宮崎広報委員長より、広報委員会活動について説明があった。ホームページのトップページのデザインを外注する予定である旨の説明があった。トップページのリニューアルについて委員会に一任いただきたい旨の提案があり、問題なく了承された。リニューアルに必要な経費については広報活動費に計上するのではなく、30年記念事業として活動委員会の事業経費も含めて第30期収支予算案に計上することに決定した。コラム等のコンテンツを是非御執筆いただきたい旨のお願いがあった。

研究分科会（5分科会）

マイクロ・ナノスケールの熱物性とシステムデザイン

宮崎オーガナイザーより、活動報告があった。ハンドブックの出版など鋭意努力したいとのこと。研究分科会は会費制（非会員より1000円徴収）にするという方向で検討し、今

期の予算は5万円とすることが問題なく了承された。

建物外皮の熱物性とシステムデザイン

吉田オーガナイザーより、活動報告があった。今期はWGを設置し、報告書などの形でまとめる方向で活動する旨の説明があった。今期の予算は計上しないということが問題なく了承された。

生活環境懇話会

諸岡オーガナイザーより、活動報告があった。本会は第6回生活環境懇話会をもって一度閉じ、もう少し学際的な分科会として趣旨を継続した新しい分科会を発足したい旨の提案がなされ、問題なく了承された。予算については事務局が山田純先生と相談して決定することになった。

低温環境における熱物性の基礎と応用

大久保オーガナイザーより、活動報告があった。2009年3月に北海道大学において研究分科会を開催する旨の説明があった。予算は10万円計上することが了承された。会費制については今後検討したいとのこと。

宇宙材料の熱物性とシステムデザイン

大西オーガナイザーより、活動報告があった。こういった研究分科会が無かったために、多くの方々に喜ばれている。今後は会費制(非会員から1000円徴収)にするという方向で検討すること。今期の予算は10万円計上することが問題なく了承された。

研究分科会の会費徴収制の導入に関しては、各研究分科会の判断に任せるということでも了承された。

9. 共催・協賛関係

長坂事務局担当より、共催・協賛関係の報告があった。

10. 会員異動および会費未納者の扱いについて

長坂事務局担当より、会員異動および会費未納者の扱いについて説明があった。今年度は企業の退会が多かったとのこと。会費未納者については事務局の判断で会員データから削除し退会扱いにした旨の報告があった。会員増強について学会として今後検討していかなければならない旨の意見があった。

11. 役員会等の年間スケジュール(案)

長坂事務局担当より、理事会・役員会等の年間スケジュールの説明があった。場所について今後慶應義塾大学三田キャンパスの会議室を利用することが提案され、問題なく了承された。また、日程に関しても了承された。

11. その他

長坂事務局担当より、ECTP18 国別参加状況の説明があり、日本からの参加が非常に多かったとのこと。今後中国やギリシャでも国際熱物性会議が開催されるので是非参加していただきたいとのこと。

以上